

研修／見学 制度について

○研修／見学の意義

定例会や大型研修会、eラーニングや書籍で学ばれたことが実際の臨床にどのように活かされているかを体験できる場です。

研修や見学により、臨床の場に触れることで、治療家と患者さんの距離感や患者さんへの声かけなどを勉強できる場でもあります。

北辰会では“秘伝なし”とし、名人に近い人材を多く輩出していくことを理念に掲げています。

実際の臨床を体感し、またフィードバックして勉強に取り組んでいただきたいと思います。

是非、以下の注意点を遵守して希望申請してみてください。

○研修／見学での注意点

見学先あるいは研修先の臨床現場とは…

「訪れる患者さんが“癒されたい”と思って訪れる場」であり、

かつ「見学を受け入れてくださる先生の“真剣勝負”の場」なのです。

研修であれで見学あれ、その治療院にいて白衣を着ている限り、

患者さんから見ればあなたも“先生”であることをしっかり認識することです。

《重要》見学のコツ・お作法

術者やスタッフの動きの邪魔にならないように意識・工夫しましょう。

普段は先生あるいはスタッフの共同業務により完結しているため、見学者が入ることに より空間的に動きにくくなる可能性があるのです。

ベッドサイドでの立ち位置に注意しましょう。

患者さんの視野にあまり入らないほうがよいですね。特に女性の患者さんが仰臥している場合、足元側から覗き込むのはよくありません。また、女性の患者さんが座位で背候診を受けている場合は患者さんの前に立たないように。子供の患者さんの場合は頭側から覆いかぶさらないように。

KYにならないように注意しましょう。

この場合のKは“気”ですね。Yは“読む”

術者と患者さんの間には見えない“気の交流”があるものです。わかりやすく言えば、術者の気配りとそ

れに呼応する患者さん…その“気の交流”があってこそその治療であり、その治療院と患者さんを結び付けている力といえます。また、ここに定例会では学べない臨床見学の醍醐味があるといえましょう。

臨床家と患者さんとの関係はいかにあるべきか、しっかり学んでください。

《重要》研修のコツ

研修生は原則入会して2年以上の会員の方々です。

この段階では先ほどの“見学のコツ・お作法”は十分踏まえておられるはず…ゆえに“お作法”は省き“コツ”のみご紹介いたします。

目的意識を持って研修に臨みましょう。

漫然と研修に臨むのではなく、常に目的意識を持つことがより効果的な研修になります。定期的に研修に通っているとただ「研修に行っているから安心」…と、なりがちです。受け入れてくださる先生はそういった姿勢もよく見られているものですよ。

先生やスタッフの呼吸、身のこなしに学んでください。

あなたがもしベッドブース内や治療室内で、先生やスタッフと頻繁にぶつかりそうになるなら、まだ研修先の治療院で必要な“息づかい”が出来ていない、ということでしょう。『靈枢』九針十二原にある「知機之道者、不可掛以髮、不知機道、叩之不發。」にも通じることです。意識してみましょう。

最低でもカルテ記載出来る様になっておきましょう。

単に後ろに立っているよりも、先生がどういった意図で問診をし、どう体表観察とリンクさせているのか、歴然と理解できるようになるでしょう。(理解できるレベルまで学習が進んでいなければなりません…)

常に手は温かくしておきましょう。

患者さんによって、またあなたのレベルによっては脈あるいは経穴等の反応を診るよう指示があるかも知れませんが、いつでも対応出来るよう手を温めておきましょう。常に“私も診療しているんだ”という気持ちで臨むことが大切です。白衣を着て治療院にいれば、あなたもその治療所の“先生”なのですよ。

お灸の手伝いが出来るよう、腕を磨いておきましょう。

北辰会方式での再診は鍼だけであれば、さほど時間がかかりません。ですがお灸の場合は患者さんによって“左右整えの灸”を行う場合、非常に時間がかかる場合があります。先生の許可が出てお灸を任されるようになれば、お灸の前後で脈診が出来る場合があります。たいへん勉強になりますよ。

ささやかではありますが、見学・研修のコツとお作法について紹介しました。

まだまだお伝えしたいことがあります、

社会人としての一般常識と上記したことを踏まえて頂ければ、
受け入れてくださる先生も見学あるいは研修させていただくあなたも
気持ちよくその時間を共有できると思います。